

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしさと笑顔いっぱい、地域で暮らす寿幸苑」という新しい理念へと改定しました。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい理念は職員会で全員がそれぞれ考えてきたものを検討し投票によって一番指示が多かったものになりました。自分たちで決めましたので、共有という意味では申し分ありませんが、実践となると毎日が勝負だと思っております。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報誌に掲載し、地域や家族の方々によく理解していただくように努力しております。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会の行事・催しに参加し、また運営推進会議にも出席していただくなど努力しております。また在宅で暮らしておられる認知症の方が遊びにこられたりしております。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者はお祭りや保育園の運動会などに参加をさせていただきます。勤労奉仕・会議・呑み方などにも積極的に出させていただきます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	地域の在宅の認知症の方への支援（徘徊時の一時 保護や家族への連絡）民生委員さんからの相談を 包括センターにつなぐなどできる限り取り組んで います。また新富町の介護家族の会にも参加し て、在宅で高齢者を介護されている方とも交流を しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を自分たちの日々の実践を振り返る絶好の機 会と捕らえ職員全員がそれぞれ自己評価を作るよ うにしています。一種の研修の機会として活用し ています。ここで外側から自分たちの仕事を眺め ることで今後の課題・足りないことなどにスタッ フ一人ひとりが気がつくことを期待しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	運営推進会議では情報の公開を第一に考えていま す。その時々グループホームとして取り組んで いることについても報告しご意見をいただいてお ります。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	できる限り担当部署の方と情報の交換・研修など についての相談を行っています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	権利擁護の研修（県社協主催）などにも参加して います。昨年度は1名の方が、成年後見制度を利 用されました。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	年数回虐待や拘束に関する勉強の機会を持っている。 今年春は、岡山県の虐待事件を取り上げ職員 会議で検討した。そこで浮かび上がってきたこと は、異常な状況の中で最後の砦は職員の介護職と しての使命感・倫理観であるということと、外部 評価・監査などのセーフティネットの欠陥だった ということでした。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	重要事項説明書に基づいて丁寧に説明している。また契約（入居）以降サービスに関して重要な変更がある際には、契約書ないし重要事項説明書の変更として明示して承諾をいただくようになっていきます。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	おおむね月に一回のモニタリングのときに入居者本人に意見・要望を直接伺います。提起された苦情要望はご家族に伝えるとともに、必ず職員会などで取り上げ運営に反映させています。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	利用料の徴収は原則対面授受としてその際にご家族等に対して入居者の現況についてお知らせしています。また寿幸苑だよりや家族会への報告、運営推進会議などで職員の移動等は報告しています。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族また家族会としてグループホーム寿幸苑に対して苦情を申し立てる権利があることを明示しお知らせをしている。また、国保連や行政に対する苦情申し立ての方法もあることをお知らせしている。提起された苦情要望は必ず職員会などで取り上げ運営に反映させています。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月一回の職員会（ミーティング）において職員の意見を言う場は作られているとはいえ、介護業務に関することが中心で、運営や人事・労務に関することが課題になることはまれである。	○ 運営等については経営プロパーに係わる問題もありただちに実現するという事は困難な問題もあるが職員がどのような希望や意見を持っているのか、素直に出せるような場を設定することは、円滑な運営にとって重要なことだと思っている。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	いったん機械的に決定した勤務シフトを事後的に調整している現状である。	○ あらかじめ翌月の行事や職員の都合などを確認し重点的な人員配置を工夫する必要がある。また、職員の急病などに対してあらゆる場面分野をカバーできる・ユーティリティのあるスタッフの養成に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年の外部評価以降6名の離職者が出ている。家庭の都合等でやむを得ざる場合もあるが「なじみの関係」にとっては好ましいとはいえない。	○	離職者・転職者が少なくない原因がどこにあるのか十分検討する必要があるであろう。また新規採用のスタッフに対してできるだけはやく「なじみの関係」には入れるように指導を徹底したい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	公的研修やグループホーム連絡協議会の研修を活用してそれぞれのレベルに合わせた研修を実施している。	○	個人的なスキルアップに関しては、個人にまかせっきりになっている。要望なども十分に聴取して、側面支援する体制を作りたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修旅行の際にはほかの先進的な取り組みをしているグループホームや小規模多機能施設などを見学し勉強させてもらっています。またほかの施設や学校からの研修や視察も積極的に受け入れています。またグループホーム連絡協議会の活動にも積極的に参加しています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	旅行や慰労会などそれなりに工夫している。しかし毎日の業務の中で休憩時間を自由に使うシステムや休憩場所が確保されていないなど課題もある。	○	スタッフの要望と少なくない業務の矛盾を解決するためにまず現状の点検と解決の方策を話し合う場を全スタッフの参加で実現する必要がある。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々のスタッフの常務内容の評価・評定のシステムはない。	○	スタッフ一人ひとりの力量と意欲を十分に踏まえて無理がないように、しかし絶えず向上心をもって業務に取り組むために、職場全体の目標や課題との関連で個々人の目標をはっきりさせそれを励まし支えるシステムを構築したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	在宅はもちろんほかの施設からの転居の場合にも必ず一度訪問して入居以前からなじみの関係を作るようにする。また寿幸苑でどういう暮らしをしたいかできる限り伺うことにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からその方の生活ぶりや困っていることをできる限り伺うことにしている。それは必ず文章として残し家族の方にも見ていただく。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望があれば入居をことわったことは無いが、グループホームよりもほかのサービスのほうが最適と考えてそれを勧めたことがある。結局その方は2ヶ月で自宅へ戻られた。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	なじめそうに無い方の場合、昼間だけグループホームで過ごしていただきしばらくして入居していただくなど工夫している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	姿勢としてはそうありたいと思うが、つい介護者と介護される人という一方通行になりがちである。	○ 認知症の方のその方らしさを支えるという原点に絶えず立ち返って相互の関係を作り出したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とともに支えるということに関しては、理念的にはっきりさせて、また絶えず家族にはたらきかけてともにその方を支えるということを実践している。ほぼ全部のご家族の協力を得ている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係がこじれた事例もあったが、ほとんどの場合入居していったん離れるとお互いに冷静に見る機会となり確執などは和らぐことが多いようである。過度に「家族調整」的なことはしないが。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけではなく友人や同級生との交流を積極的に促している。年賀状や暑中見舞いを出すことを勧めたり近所の場合訪問したり。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるように努めている	相互関係が上手くいく方もいるが、どうしても孤立傾向から脱却できない方もいる。難聴や弱視というハンデとも絡むし、その方の個性やこれまでの生き方とも関係があるので、無理強いはできない場合がある。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後なくなった方もあるが、ご遺族にも行事などへの参加を呼びかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のモニタリングの際には、本人や家族にサービスへの満足度を伺い、新しい希望や困っていることを伺うようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特に入居時に力を入れている。それなしでケアプランを作ることは現実的にできない。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録をとり何か変化がでたときにはスタッフで検討する。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成に関しては本人・家族の意向を必ず確かめ希望に沿うようにしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	おおむね月に一回のモニタリングのときに入居者本人に意見・要望を直接伺う。変化があった時にははご家族に伝えるとともに、必ず職員会などで取り上げプランの検討をする。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記入の点では遺漏があるとは思わないが、共有の点でまだまだ課題が残る。介護に追われて記録に目を通さないスタッフがいる。	○	気になる情報についてはスタッフ相互で確認したか点検をしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームであるので多機能性といわれても返答に困る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を活用し地域の催し・保育園行事などへの参加の実績を作っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	設問に無理があるようです。グループホームの入居者はほかのサービスといっても介護保険を利用することはできません。インフォーマルなサービスおよび医療レベルのサービスに限られます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護については相談したことは無いが、包括センターから運営推進会議に出席してもらいたえず連絡を取っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	十分配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーはその方らしさの根幹にかか わることでであると自覚して注意している。また個 人情報は取り扱いのガイドラインを定め気を配っ ている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	できる限り本人の意向を聞いて、自分で納得して 毎日を過ごしていただくようにしている。不可能 なときはその理由を説明をしているが、時には納 得していただけないときもある。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	毎日そうであるかという、やはり職員側の都合 や行事・流れを優先させることが無いとはいえない。 やむをえないこともあるので、個人的な要望 が満たせないときには、きっちりと説明しあやま り、後日必ず希望に沿うようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	美容師の元職員が月に一度以上は訪問して、理美 容を手伝ってくれている。また、床屋に家族とと もに行く方もいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>ハンデキャップのある方への個人的なかかわりを強化し、生活のなかでの楽しみと張り合いを持っていただくようにどう支援したらいいか検討していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は少ない。個人的な買い物は苑で立替払いをして、後日家族から支払っていただく。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望のある方には、スタッフとともに外出するか、家族の支援で外出するか、それに沿うようにしている。1名だけかなり自由に一人で外出する方もいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	基本は家族に相談をして、できるだけその機会を取れるようにしている。また花見などは年数回でかけている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由にさせていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人の訪問に一切制限は無く、できるだけ多く機会を作っていただくようにはたらきかけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で拘束について学習して理解している。しかし、時々「言葉による拘束」がみられる。	○	身体的危険が及ぶ可能性が無いときに安易に「危ない」とか「だめです」とかいう言葉を使うことが無いように徹底していきたい。結局それは認知症の方のケアにとってマイナスになるのだという自覚をスタッフに持ってもらうように努力したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	十分気を配っている。	
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	個人の居室にあるものについては、その方の能力性向などを勘案してできるだけ希望に沿うようにしている。	
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	モニタリングを通じて一人ひとりのリスクを洗い出しその方にあつた対応をしている。	
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	特に応急処置に対する能力についてはばらつきがある。また、新規採用の職員の場合には防災訓練を経験していない者もいる。	○ 応急処置については看護師の指導の下に基本的な訓練を早急に実施したい。テンカン発作や心肺停止の際にできる基本的なことを身につけたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	毎年火災を想定した訓練を行っている。また地区消防団に施設を巡回してもらうようになっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの策定の際に家族とも相談して自由な生活と事故等の防止の接点を探っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	基本的にできていると思われる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基幹職員はおおむね理解していると思われるが、勤務間もないスタッフもいて十分理解しているとはいえない状況にある。	○	早急に入居者の医療・健康・服薬等についての検討会を開催し周知徹底を図りたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	力を入れている。洗腸に頼っていた方が現在下剤のみで何とか排便できるところまでは来た。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分などその方の健康状況に合わせ加減し、また減塩食なども提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	職員は定期的に検便を行っている。またインフルエンザ予防接種は全入居者と職員が行う。肺炎予防ワクチンは80歳以上の方には接種済みである。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	厨房専任職員がそれにもっぱら当たっている。これまで食中毒と見られる事例は発生していない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者の方が育てている鉢などを置き工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感・季節感にはやや乏しいといわざるを得ない。	○	季節の草木の鉢物や生け花を飾って季節感を演出したい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳・机など思い思いのお気に入りの場所がありそれを尊重している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個人差があるが、なじみのものを持ち込んでもらうように家族にははたらきかけている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>特に夏場の冷えすぎには注意をはらっている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>できるだけ多く手すりを設置し、また庭は転倒時のダメージが軽減されるように芝生としている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>字が読める方の部屋には案内を張ったりしている。もう少し大きな文字で名札などを記して見やすくしたほうがいいかもしれない。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭は鉢物などを育てたり、日向ぼっこをしたり、夕涼みをしたりして活用している。出入りは自由。また隣接する野菜畑があり野菜を育てることが生きがいの方もいる。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症であるかどうかにかかわらず、施設で家族からいわば切り離されて生活しておられるお年寄りのほとんどが満たされないものを持っておいでだと思います。私たちは家族の代わりにはなれないけれどもそういう寂しさを持って暮らしているということを十分わきまえて接していきたいと思います。できるだけ家族と一緒に手を携えてお世話をすること、基本にしていきたい。家族会の活動も軌道に乗りつつあります。家族とスタッフがお互いに理解しあっているということが、お年寄りたちには敏感にわかります。それは認知症をもった方にとっていわば落ち着きを取り戻す一番の「妙薬」であると確信しています。培われつつある家族との信頼を大事に育てていきたいと思っています。それがとくに、終末期を迎えた場合など、安らかな旅立ちのためにどうしても欠かせない条件でもあります。今後ターミナルケアのご希望があった際にも、積極的に答えられるように研鑽したいと思います。また、地域の皆さんから支えていただくことも多くなりましたが、今度は何か地域の役に立つことを見つけ、実践したいと思います。